

# LETTER

GraSPP  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1ページ 旅立ち、そして新しい世界へ～2018年度秋期学位記伝達式(当日レポート、修了生代表メッセージ)
- 2ページ CAMPUS Asia Okinawa Study Trip報告/GraSPP Research Seminar開催報告
- 3ページ 学生インタビュー(公共政策学専攻専門職学位課程 国際公共政策コース2年 中原由棟さん)
- 4ページ 2019年入試説明会/TOPICS

## 旅立ち、そして新しい世界へ～2018年度秋期学位記伝達式



秋晴れの9月14日午後、2018年度GraSPP秋期学位記伝達式が国際学術総合研究棟内SMBCホールにて挙行されました。アカデミックガウンやスーツなど華やかな装いを身にまとい、やや緊張の面持ちで式に臨む49名の修了生たち。式にはご家族の方も多数ご列席を賜り、和やかな雰囲気の中、修了式は執り行われました。高原院長から修了生への祝辞では、温かなメッセージに涙を浮かべる学生の姿も……。その後、院長から一人一人に学位記を直接手渡されると、晴れやかな笑顔で受け取り、握手を交わしていました。成績優秀者の発表では大いに盛り上がり、最後に修了生全員と教員で集合写真を撮影して、喜びの日は出席者全員の笑顔で締めくくられました。

### 修了生代表メッセージ

公共政策学専攻専門職学位課程 国際プログラムコース (MPP/IP) 修了  
Jacqueline Yoshiko ENZMANN

Summing up my time at GraSPP in just a few hundred words has proven to be quite the difficult task considering the breadth of experience I've had over the past two years. As I look back, I am most grateful to GraSPP for bringing together a diverse student body of global academics united by an interest in public policy and a passion for building bridges between countries. While I will be sad to see many of my friends and colleagues return to their home countries or pursue opportunities elsewhere, I take comfort in the fact that I have built a network of connections across Asia and around the world, a souvenir from my time at GraSPP that I will surely keep with me long into the future. On an academic level, the coursework at GraSPP also challenged me to deepen my understanding of international relations and policy analysis, while also pushing me to explore more unfamiliar topics ranging from regional economic development to geopolitical and security issues.

Now with my diploma in hand, I am excited to take the next step in my career with my new job as an editor in the communications department for a nonprofit organization in Japan. I would like to close by thanking my teachers, friends, and family for their support and guidance over the last two years. I'd also like to wish everyone in the autumn graduating class all the best in their future endeavors. We made it!

私はこの2年間、GraSPPで様々な経験をしました。それを、たった数百文字でまとめるのは非常に難しいことです。思い返せば、世界中で様々な研究活動を行う多様な学生が、公共政策への関心と各国の架け橋になりたいという情熱のもとに集まる機会を、GraSPPが与えてくれたことに最も感謝しています。多くの友人や仲間が故郷に帰国したり、可能性を追求するために他の土地に旅立ったりするのは寂しく思いますが、アジアや世界中の人々とつながり、ネットワークを築けたことは嬉しく思います。このネットワークは、私にとってGraSPPで過ごした日々の財産として、今後ずっと残るでしょう。教育水準に関しても、GraSPPの講義は、国際関係と政策分析の理解を深める意欲をかき立て、地域経済開発から地政学的な問題や安全保障の問題など、今まで私にとって馴染みのなかったテーマを知る機会も与えてくれました。

今、私は学位を手にし、日本で非営利組織の広報部の編集者という新しい仕事を得て、次のキャリアの一步を踏み出すことを楽しみにしています。最後になりましたが、この2年間私をサポートし、ご指導してくださった先生方、友人達、家族に感謝いたします。秋に卒業を迎えるクラスの皆さまの今後のご発展をお祈り申し上げます。ついにやりましたね！



高原院長(右)との記念撮影



# CAMPUS Asia Okinawa Study Trip報告



2018年7月25日～27日、SIS2開講のキャンパスアジアプログラム実践科目(CAMPUS Asia Joint Course: International Public Policy in East Asia)の締めくくりとして、東京大学、北京大学、ソウル大学の学生と教職員合計22名で沖縄県へフィールドトリップに行きました。

訪問先は、沖縄の戦争・歴史をテーマとした、平和祈念公園、ひめゆりの塔、戦時中軍の病院施設として利用された自然洞窟である糸数アブチラガマ。また、沖縄独自の文化に触れることを目的とした首里城見学や琉球舞踊鑑賞、安全保障について考える嘉手納町役場、嘉数高台公園、外務省沖縄事務所へも訪問しました。さらに、沖縄の経済産業や地域経済・産業・労働について学ぶ工場見学や沖縄国際大学・ソウル大学校教授によるセミナーを開催しました。

3日間という、限られた日程ではありましたが、幅広くバランスよく学びながら教職員・学生間の親睦をより一層深めることができ、参加者それぞれがCAMPUS Asiaプログラムの意義についても再認識することのできた有意義な機会となりました。(国際企画チーム キャンパスアジア担当)

## <Participating students' impressions>

–I couldn't help but notice that many of the casualties were from Korea and China. When we visited Peace Memorial Park, many CAMPUS Asia students seemed surprised to see a stone monument commemorating Korean casualties. We realized that the Battle of Okinawa was not just a war between the US and Japan but part of a huge war across all of East Asia. (Japanese Student)

–This three-day Campus Asia trip to Okinawa was an insightful and eye-opening experience to me as a Korean, having been taught that we were the victims of war. I strongly felt Japanese people's desire to remember the brutality of war and also their aspirations for Okinawans to have a bright future of peace and growth. (South Korean Student)

–The study trip to Okinawa reminds me of my initial impetus to learn more about the region, "I want to be immersed in a variety of cultures and languages, to understand their suffering and delight, and to become a real East Asia citizen." International politics is not only about states and top leaders. It should be felt and interpreted in the daily experience of every individual person. I will never forget the moment when all the visitors turned off their flashlights in the cave, feeling how dark it was and imagining what life would be like living inside the cave with feeble light for months. We should all let the light of peace lead us out of the cave of conflicts. (Chinese Student)

## GraSPP Research Seminar開催報告

公共政策学教育部国際公共政策学専攻博士課程2年 Cesare Scartozzi



講師のGiulio Pugliese氏



当日の様子(司会は高原院長)

On July 11, 2018, the Graduate School of Public Policy was pleased to host Dr. Giulio Pugliese, lecturer at the Department of War Studies of King's College London, to give a talk on China-Japan relations and present his latest book co-authored with Aurelio Insisa (Sino-Japanese Power Politics: Might, Money and Minds, Palgrave: 2017). The conference was moderated by Dean Akio Takahara and co-hosted with the Policy Alternatives Research Institute as part of the GraSPP Research Seminar series.

The GraSPP research seminar series began the past year with a renewed focus and vigor, having already hosted close to a dozen distinguished speakers who addressed expert audiences.

Dr. Pugliese spoke to a broad audience about the complicated and multifaceted relationship between China and Japan. He suggested that, as is the case with the Senkaku Islands dispute, the two countries are playing a "zero-sum game" where each attempts to achieve relative gains at the expense of the other. Dr. Pugliese then argued that China and Japan have become locked in a geo-strategic competition that is played in the domains of "might" (military competition), "money" (economic competition), and "minds" (propaganda and public diplomacy).

Dr. Pugliese discussed in great detail the domain of minds, which was of particular interest to the audience, outlining the latest developments in public diplomacy and information warfare. He pointed out that Japan, prompted by the increasingly bitter rivalry with China, has moved from a simple use of public diplomacy to a proactive campaign of strategic communication. Finally, Dr. Pugliese noted that Japan's message abroad has also significantly changed, with the country now depicting itself as a balancing force against China, a reliable partner, and a guarantor of the international liberal order.

# 学生インタビュー

## 第28回

### 中原 由棟さん

(公共政策学専攻専門職学位課程  
国際公共政策コース 2年)



駐日シンガポール大使との記念写真(右が中原さん)

—この4月から社会人として働いているそうですね。

はい。実はいわゆる社会人学生になりました(笑)。

僕は、元々アカデミズムに興味があったので大学院への進学を考えていました。学部は法学部だったんですけど、修士で何を研究していこうか考えていた大学3、4年生の頃がちょうど、テレビやネットでTPPの話題が頻繁に流れていた時期だったんですよね。そのような報道などを見ながら、徐々に農業経済に興味を持つようになって、それで大学院では農学生命科学研究科に進学しました。その時の指導教官が学者でもありながら政府関連の委員会にも出席されていて、その教授の姿を見て、こういう道も面白いなと思いましたね。その教授の影響もあって、農業×政治・政策という観点からもっと学びたいと思い、GraSPPを受けようと思いました。

GraSPP入学後は勉強に加えて自治会や課外活動として大使館ボランティアの活動にも力を入れました。進路や将来のことなど、自分の人生について色々悩みましたが、「第一次産業の活性化なくして地方経済の活性化なし、地方経済の活性化なくして日本経済の活性化なし」という僕なりの信念があったので、今の農林水産業関連の仕事を志すようになりました。幸いにも、在学しながら働くことに理解をいただけたので、この4月から働き始めました。

仕事をしながら、GraSPPの授業で聞いていた単語を職場でも当然のように見聞きするので、学びと実務が一致していると実感しています。たとえば、オープンデータベース(行政が持っているデータをオープンにしておくこと)とか、EBPM(エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案)とか、授業で聞いていた言葉が、実際に仕事の中で出てくるので、学生しながら仕事もしているという実感はすごく強いですね。授業と仕事が同時進行で直結している点が仕事をしていても面白いですし、GraSPPで勉強する甲斐も感じています。

—仕事と勉強の両立のために、工夫していることは？

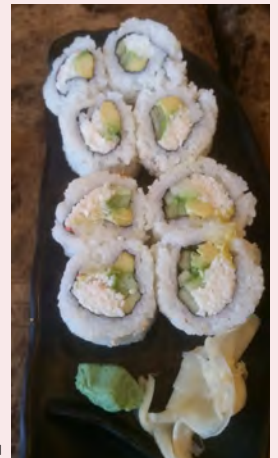
これというものは、特にはないですね。僕は学校が好きなので(笑)

僕は家で勉強すると他のことに注意がいかってしまうので、いつも大学で勉強しています。家が大学から近いということもあって、時間があれば土日はほぼ大学に行ってます。平日も早めに仕事が終わった時には、一度家に帰って荷物を置いて、それから大学に行って夜遅くまで勉強しています。もちろん、翌日の仕事に支障をきたさないように注意しています。元々、大学が好きなんですよね、僕。よく友人から、「二足の草鞋は大変じゃないか」って聞かれるんですけど、僕は大学が好きなので、むしろ大学に来るとストレス発散できるんです。一番落ち着く場所が、僕の場合は学校なんですよね。なので、自分の中で、「学校に引きこもってる」と言ってます(笑)

僕としては、これからも仕事での実務と大学での研究の両方を続けていきたいと思っています。可能なら、博士課程への進学もできればいいと考えています。あと、座学の勉強だけではなく、もっと多くの人に日本のこと、農業等の第一次産業に興味を持ってほしいと思っているので、最近海外でも人気の高まっている和食など、日本の良いところを伝えて行けるような課外活動も何かしらやっていきたいです。(インタビュー・文責 編集担当)



2017年に旅行で訪れた「田んぼアートin青森県南津軽郡田舎館村」。田んぼの美しさに感動した



「和食」について改めて考える機会になった「本場のカリフォルニアロールinロサンゼルス」

# 2019年入試説明会

## 未来の公共政策プロフェッショナル求む！



公共政策大学院は、アジアのいくつかの都市で公共政策学修士国際プログラム(MPP/IP)の「2019年入試説明会」を実施しました。いずれも同窓生と教職員(総称すると「GraSPPers」)が協力して実現したものです。未来の公共政策プロフェッショナルと実際に会って対話することによって、公共政策大学院で学ぶことに興味をもってくれるものと期待しています。これまでに訪問した都市は、ジャカルタ(7月28日)、ヤンゴン(29日)、ネーピードー(31日)、バンコク(8月4日)、カトマンズ(5日)、マニラ(7日)、ウランバートル(17日)、デリー(25日)、プノンペン(9月8日)、ビエンチャン(9日)です。

### リクルートメント活動に貢献する同窓生

「7月28日にジャカルタで開催した『2019年入試説明会』には、MPP/IPに関心をもつインドネシアの若手社会人・学生が70名以上参加してくれました。参加者とは、いまもWhatsAppグループでつながっています。同窓生ネットワークを活用して登録を呼びかけたことが功を奏し、遠隔地からを含め150名以上の登録を得て、これまでの説明会を上回る成功をおさめたことに満足しています。GraSPPの同窓生として、私たちは、インドネシアの将来有望な若者がGraSPPを知り、MPP/IPに

出願するためお手伝いしたいと考えています。というのは、これこそが母校への恩返しだと信じるからです。インドネシアから多くのGraSPPersが生まれることを望んでいます。」

デイヴィッド・シラム・ブディ・バクロ(2016年修了、インドネシア財務省)



「私たちは、昨年初めて、幅広い若手社会人を対象にMPP/IPの説明会を開催しました。母国タイの政府・民間部門で働く同窓生は、プログラムづくりと準備に数か月をかけて説明会を成功に導きました。こうした経験があって、今年も8月4日にバンコク市内で成功裡に説明会を開催することができました。いくつかの政府機関にプログラムを配り、ソーシャルメディアも広報に活用しました。GraSPP同窓生のパネルトークでは、私たちの体験を共有することによって、集まってくださった方々にGraSPPとMPP/IPに関する多くの情報を提供できたと思います。」スティラ・シントン(2013年修了、タイ財務省)



## TOPICS

10月20日(土)に東京大学でホームカミングデイが開催されます。GraSPPでは「GraSPP Alumni & Student Day 2018」と題して、本郷キャンパス国際学術総合研究棟4F 講義室B及びSMBCホールにて講演会と懇談会を開催する予定です。現役・修了生の皆さん、どうぞ奮ってご参加ください。詳細はHomecoming Dayサイト <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/tag/homecoming-day/> をご覧ください。



## 編集後記

振り返ってみると、7月の西日本の豪雨、8月に立て続いた台風、9月初旬の北海道の地震、そして猛暑を超えた酷暑など、色々と記憶に残る出来事が多かった「平成最後の夏」だったように思います。このような歴史的ともいえる2018年のこの時、GraSPPを旅立たれた修了生の皆さんの今後のご活躍を心から願っております。(編集担当)

vol.

52

NEWS  
LETTER

【編集・発行】東京大学公共政策大学院 【発行日】2018年10月15日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>